

第五十三回

岡山後楽能



2023年

11
月
3日
(金・祝)

岡山
後楽園
能舞台

解説

観世喜正

仕舞 東方朔

鈴木啓吾
遠藤和久

石井寛人
中森健之介
観世喜正

仕舞 蟬丸

弘田裕一

地謡
奥川恒成

一調 杜若

謡 馬野正基

太鼓
梶谷義男

大蔵流狂言 鍋八撥

浅鍋売り 島田洋海

目代 田賀屋夙生 後見 山下守之

羯鼓売り 茂山千五郎

笛 八木原周平

休憩

十四時半頃

藤原師長 林宗一郎

姥 桑田貴志

龍神 金子仁智翔

老翁 村上天皇 観世喜正

観世流能 玄象

クツロギ

家来 岡充

従者 有松遼一

師長の下人 山下守之

後見 弘田裕一

後見 遠藤和久

地謡 奥川恒成

地謡 中森健之介

鷹尾章弘 鷹尾維教

大鼓 守家由訓 太鼓 梶谷英樹

小鼓 横山幸彦 笛 八木原周平

■曲目解説

□「狂言」鍋八撥(なべやつぼち)」

所の目代が新市をたて、一の店に就いた者を末代までも取り立てようとの高札を打つ。それを聞き付けた羯鼓売りと浅鍋売りは一の店を巡る争いをおこす。目代が仲裁に入るが、どちらが正しいか理非が知れぬとあつて、二人に勝負をさせる。

羯鼓売りの提案により「棒振り」や「羯鼓打ち」と羯鼓売りに有利な勝負が続くが、最後は「相打ち」となる。二人の勝負の行方はいかに。

棒振り、羯鼓打ちの舞事には笛の演奏も入り、賑やかな場面となる。

□能「玄象(げんじょう)」

時の太政大臣・藤原師長は、「雨の大臣」と呼ばれる琵琶の名手であつた。旅の途次須磨の浦にやつて来た師長一行は塩汲みの老夫婦の家に宿を借りる。粗末な板屋に住む老夫婦は、卓越した琵琶・琴の演奏を聴かせて師長を驚かせる。素性を尋ねると老人は、国宝「玄象の琵琶」の持主として歴史に名を残す、第六十二代・村上天皇の霊であると明かす。

在りし日の天皇の姿となつて、再び現れた村上天皇の霊は、龍宮城から龍神を呼び寄せ、失われた幻の琵琶「獅子丸」を師長に届けさせ、自らも優雅に舞を舞つて去つてゆく。多くの登場人物によつて織りなされる、華やかな能。音楽の演奏も多く囃子方も活躍します。

鑑賞料 (全席自由席)

前売券 (後楽園入園券付)	5,000円
当日券 ※当日券は能舞台で販売します ※後楽園入園券は別途お買い求めください	学生券 2,000円

※岡山後楽園YouTubeチャンネル→
当公演の狂言の解説動画がご覧になれます
YouTubeページから『岡山後楽能』で検索



チケット販売窓口

岡山後楽園 TEL.086-272-1148

茂山狂言会事務局 TEL.075-221-8371

天満屋バスステーションチケットセンター
TEL.086-231-7679

ぎんざやプレイガイド TEL.086-222-3244

チケットぴあ <https://t.pia.jp>
※後楽園入園券は付きません (Pコード:521-348)